

松花堂庭園 幻想的

ライトアップに来園者うっとり



和ろうそくの明かりが灯された茶室

「梅の香かおる松花堂庭園ライトアップ」が3月5日～7日の3日間、松花堂庭園で行われ、来園者303人がライトアップされた夜の庭園を満喫しました。

このイベントは新型コロナウイルス収束を見据え、広く観光客を受け入れるため夜間の受入環境整備を進める文化庁の支援事業で、



ライトアップされた松花堂庭園

ライトアップされた庭園が初めて一般公開されました。

5、6日には、1日限定12名の茶会を開催。和ろうそくの明かりが灯された茶室で、参加者は裏千家正教授の藤井宗悦さんが点てた抹茶や、特別メニューの松花堂弁当などに舌鼓を打ちました。

7日には、事前予約で来園時間を分散して一般に公開。庭園内の梅や椿、竹林などが淡い光で照らし出され、幻想的な雰囲気を出していました。

大阪市から訪れた北村卓明さん(25)は「昼間と景色が違ってきれいでした。またこういう機会があれば、ぜひ来園したいです」と話していました。

VRイメージ



江戸時代に男山山腹からせり出すように造られた空中茶室「閑雲軒」。当時の茶室やそこから見える景色などを追体験してもらおうと制作していたVR(バーチャルリアリティ)動画が完成しました。

閑雲軒は、石清水八幡宮の社僧であった松花堂昭乗が近江国小室藩初代藩主で建築家でもあった小堀遠州とともに、自らが住職を務めた瀧本坊に造った「懸け造り」と呼ばれる構造の茶室。

安永2年(1773年)に火事で焼失しましたが、絵図や文

茶室からの景色などVR動画



QRコードで公開しています。

YouTubeチャンネル(上記)で公開しています。

章に記録が残っており、平成22年に教育委員会が行った発掘調査では高さ7メートルもの柱を支えた礎石なども見つかっています。

VR動画では、空中にせり出した廊下を歩いて茶室に入り、昭乗役を務める茶人のお点前のほか、ドローンで撮影した合成映像で空中を散歩する雰囲気が楽しめます。動画は、松花堂庭園・美術館のYouTubeチャンネル(上記)で公開しています。

江戸期幻の「閑雲軒」現代に

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や広報紙に「この意見」を、秘書広報課までお寄せください。

コロナ収束 祈りのともしび

石清水八幡宮社殿などをライトアップする「祈りのともしび～和の心～」が3月12日～14日の3日間、行われました。

このイベントは、アフター・コロナでの外国人観光客の誘客を見据え、夜間における付加価値の高い観光造成を目的に、観光庁の支援を受けて一般社団法人京都山城地域振興社(通称：お茶の京都DMO)が実施しました。

石清水八幡宮参道ケーブルでは、JALグループの客室乗務員が車内でアナウンス。

来場者たちは、旅行気分を味わいながら山上に上りました。

石清水八幡宮の御本殿では、京都芸術大学の学生らが新型コロナウイルス収束への願いを込めて制作したオブジェ「祈りのともしび」が設置され、その前で巫女が舞を披露。

ほかにも、参道が行灯で照らされたり、NPO法人八幡たけくらぶが制作した竹灯ろうで男山展望台がライトアップされたりし、境内など一帯が荘厳な雰囲気に包まれていました。

オブジェ前で巫女が舞う



オブジェの前で舞を披露する巫女

今月のこの人

投票所に花飾り環境づくり



もりい 森井さん(右)
さるわたり 猿渡さん(左)

みつお 光男さん(右)
ようこ 洋子さん(左)

選挙管理委員会は、選挙の管理・執行や選挙の啓発などを行う行政委員会です。森井さんと猿渡さんは任期中、投票率の向上などに取り組んできました。

「市独自の取り組みとして、投票所に花を飾ったり、音楽を流したりすることで、投票しやすい環境づくりをしています」と猿渡さん。森井さんは「選挙の情報や他市町村の取り組みなどを委員会で共有し、八幡市でできることを検討してきました」と話します。

お二人は、令和2年12月に選挙管理委員会委員を退任。長年の委員会での活動を終え、

「公正な事務執行がなされることを第一に考えてきました。無事に終わることができ良かったです」と胸をなでおろします。

今後、森井さんは明るい選挙推進協議会の一員として、猿渡さんは地域福祉活動をしながら、それぞれの立場で選挙の普及に取り組んでいきます。

本コーナーでは、市にゆかりのある人物や団体等を紹介していきます。自薦・他薦問わず、紹介希望者を募集していますので、詳しくは、市ホームページをご覧ください。秘書広報課へお問合せください。